

令和5年度 第1回学校運営協議会議事録

さいたま市立慈恩寺小学校

1 日時・場所 令和5年6月21日(水) 10:30~12:00 校長室

2 出席

【会長】	新井 英雄	鹿室自治会長
【副会長】	駒宮 寿夫	さいたま市立鹿室南集会所長
【委員】	深井 幸子	主任児童委員・チャレンジスクール実行委員長
	丸山 朝夫	裏慈恩寺貝塚自治会長・防犯ボランティア
	星 富夫	グリーンクレスト前自治会長・防犯ボランティア
	遠藤 実	交通指導員
	新井 有理	慈恩寺中学校PTA会長
	村上 加奈恵	慈恩寺小学校PTA会長
	笠原 芳美	慈恩寺小学校長
	尾坂 俊哉	慈恩寺小学校教頭
	大和田 悠	慈恩寺小学校教務主任
	山岸 祐子	慈恩寺小学校地域連携コーディネーター
欠席【委員】	福田 博志	慈恩寺中学校長

3 次第

- (1) 校長あいさつ
- (2) 委嘱状・任命書交付
- (3) いじめ対策委員会(生徒指導主任)
- (4) 委員自己紹介
- (5) 会長・副会長選出
- (6) 開会の言葉(会長)
- (7) 学校経営方針等説明(校長)

グランドデザイン、自己評価システムシートに基づいて説明、承認

(8) 熟議(①②について意見交換)

- ①子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか。
- ②学校・家庭・地域が一緒にできることは何か。
 - ・自分の思っていることを自分の言葉で伝えられない。
 - ・まわりの大人がやってくれている。今の時代、生活は楽で便利になっている、心の方はどうなのか。
 - ・現金で買い物ができない。
 - ・学力をベースにしながら、自分がどう発信していくのか、どう人に伝えるのか、どう行動するのか。
 - ・先生や保護者にも昔は、がまんする(待つ)時間があった。今、子どもや大人が成功を求められているからゆとりがない。
 - ・教室は失敗してもいい場所にできるか。
 - ・子どもは、やる気になったときと、いやいや気分のときでは、身に付く度合いが異なる。子どもをやる気に

するにはどうしたらよいか。

- ・先生が他のことに集中できるようにしてほしい。
- ・小学校の教員は丁寧である。細かいところまで教員がやっている。
→子どもは自分で考えなくなるから、意識をして自分で考える場を設定する。
- ・やる気が出るような宿題、先生方にきっかけづくりをお願いしたい。
- ・タブレットが配付されたことで、自らの手で字を書いたり、文章を書いたりするのが減っているのではないかな。
- ・コロナ禍により、人とのかかわり（実家、本家、親戚、自治会など）が分断されている。個人主義になっている。PTAもなくすことは簡単だが、立ち上げるのは大変難しい。
- ・自分のルーツなど、このようなことを大切にすれば、神社や寺、地域を大切にする気持ちがうまれるとともに、防犯・防災の対策にもつながる。
- ・日本の昔からの伝統（たたみ、ふすま、障子、墓参り、お盆、おせちなど）が無くなってきている。伝えていかなければならない伝承の部分を大切にしたい。
- ・がまんする力、くじけない力が大切。積極性のある子にするにはどうしたらよいか。
- ・親を教育するのはPTAしかない。
- ・年寄中心の自治会になっている。
- ・自治会の中には、じゃがいも掘り、子ども神輿などを計画し、子どもや保護者が地域の人とかかわる場を設定している。
- ・チャレンジスクールでは、卒業生が参加する側から運営する側へ立場を変えて参加している。大人が子どもに伝えるよりも、卒業生から伝える方がよい形になっている。

(9) 事務連絡(副会長)

次回、第2回は11月15日(水)の予定

(10) 閉会の言葉(会長)

(11) その他(教頭)

- ・校内授業参観について 12:00~12:25(4校時)、第2校舎の教室を巡回した。